

総合的な学習の時間の実践

札幌市

総合的な学習
4年

地域の福祉施設へ行こう！

百合が原の今・昔

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/douseiren/>

この指導案は、上記のHPよりダウンロードすることができます



地域の今と昔を比べる活動が「ひと・もの・こと」の関連を確かなものにし、自分の存在を見つめ直すきっかけになります。高齢者とのふれあいが少ない現状で、自分たちに何ができるのかを考えさせ、より思いやりのあるふれあいを目指していきました。

学習活動の流れ（30時間）

福祉施設について知っていることは？（3）

施設に行っていろいろ確かめてこよう！（3）

- ・うれしそうだったよ
- ・うまくはなしができなかつた
- ・またきてねって言われたよ

交流会を計画しよう！（5）

- ・うまくふれあえた
- ・うまくふれあえなかつた

もっと施設やお年寄りについて考えよう（7）

- ・施設について調べよう
- ・お年寄りについて考えよう

お年寄りを招待しよう！（8）

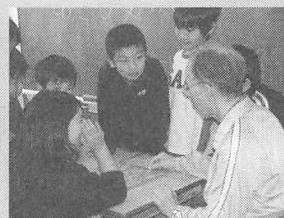
- ・もっと思いやりの交流会に
- ・これからも進んでかかわっていこう

人に注目させて、訪問しました。うまくふれあえなかつたという経験を大にし、次の活動の意欲をもたせました。

体験をもとに、うまくふれあえる方法を話し合わせることで、より思いやりのあふれる交流会を目指しました。

お年寄りとの交流を、二回行ったことによって、より思いやりあふれる交流ができました。

一度目はうまくかかわれなかつた子も、よりふれあえることができました。



もっといい交流会にするためには…

教材・活動の **Point!**



1. 目的をその都度変えて、繰り返し訪問する

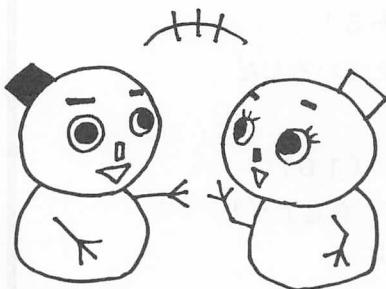
目的がはっきりすると、子どもたちの活動が充実していきます。そこで、限りある訪問を有効な活動にするために、その都度目的を変えて施設の訪問を行いました。子供の思いを少しづつ高めていくことができました。

2. 相手の立場で考えさせるために

子供たちが考えてやろうとしていることを価値付けるために、施設で働く方に来ていただき、子供たちの活動を示唆してもらいました。職員の方の話を聞くことで、お年寄りの情報を得てからかかわることができます。その結果より自信をもった交流につながりました。



3. 根拠のある交流を求めて



ただ単に「やりたいな」では、深まりのある交流は生まれません。「こんなお年寄りがいるから〇〇をしよう」など、今までの訪問や交流を踏まえた意見交換で、次の学習への課題をもたせていきました。